

緊急無償資金協力

「アフリカ諸国における新型コロナワクチン接種促進に係る緊急無償」引渡式の実施

在ボツワナ日本国大使館

令和5年5月15日

令和5年5月12日、国連児童基金（UNICEF）とともに、低温での温度管理が必要とされるCOVID-19ワクチンの保管のため、超低温冷凍庫、ウォークイン冷蔵庫、温度記録・管理機器等のボツワナ保健省への引渡しを実施しました。本式典は、大森厚生駐ボツワナ日本国大使、エドウィン・ディコロティ保健大臣、ジョアン・マッジUNICEFボツワナ事務所長及びその他関係者の出席の下、ハボローネ市内のセントラル・メディカル・ストア（Central Medical Stores）内にて行われました。

今回の協力は、日本政府が令和3年4月に決定した緊急無償資金協力の一環として、国連児童基金（UNICEF）を通じ、中南米及びアフリカの計31か国を対象に、各国国内でのワクチン接種体制を構築する「ラスト・ワン・マイル支援」として、コールド・チェーンの整備を行ったものです。令和4年2月にボツワナでのプロジェクトが開始され、約60万米ドルのコールド・チェーン整備に係る支援が行われました。また、機材を扱う技術者や医療従事者に対する技術トレーニング等の支援も実施されました。

引渡しにおいて、大森大使は、UNICEFに対してコールド・チェーン機材の調達に感謝の意を述べるとともに、ポスト・コロナの時代において、今回供与された機材は、新型コロナワクチン以外の定期接種など、保冷が必要な医療用ワクチンに使用することが可能であり、適切な管理の下で機材が活用され、ボツワナの人々の健康な生活が確保されることを望む旨、述べました。



（写真）大森大使及び式典出席者



（写真）供与した機材（ウォークイン冷蔵庫）